平成30年度事務事業評価シート(重点戦略事業・一般事務事業用)

1 基本情報

事業名	森のグランドワー	森のグランドワーク推進事業 コード 2 - 2 - 1 - 1											
位置づけ	みどり活用プロシ	みどり活用プロジェクト みどりが価値を生み出すまちづくり											
世国ノバ	地域での環境保全や創出の取組みとしてのグラウンドワークの推進												
事業期間	平成28年度 ~	平成32年度	担当	市民環境経済部 環境課 課等長 川上 利									
予算科目	目 会計 一般 款 4 項 1 目 4 事業 ★森のグラウンドワーク推進事業												
根拠法令					事業区分 ■ 市	単独事業	□ 補助事業						

\circ		
/	事業概要	(Plan

事業実施 の背景	市内に、豊富な自然を有していながら、市民が触れ合う機会が少ない森があることから、市民が市内の森を知り、白井の自然の豊かさを育む機会を提供する必要がある。									
目的	対象(誰・何を)	意図(どういう状態にしたいか)								
	市民•市民団体等	市内の森において、自然環境を保全し、良質なみどりの環境を創造する。								
	■ 直営 □ 全部委託 □	一部委託 □ 補助金等 ■ 協働 □ その他								
手段	・市民、市民団体等と市が協働し、「 展開	市内の森(神々廻市民の森)で、みどりの資源を育む活動等を								

3 取組状況 (Do1)

	O 4X/104/V	HANIE ACTION											
	H29年度 取組状況	・来場者にみどりに触れ合う機会を											
ı		前年度以前評価での改善項目	改善状況(前年度評価に基づかない改善事項等も含む)										
	改善策 取組状況												

4												
	区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度予算	H32年度予算				
事第	養計	Α			305	346	359	359				
	国県支出金	Ê										
財	受益者負担	В В										
源内	地方債											
訳	その他											
	一般財源		0	0	305	346	359	359				
人作	‡費計	С	0	3,244	3,180	3,180	3,180	3,180				
	正職員	人数		0.40	0.40	0.40	0.40	0.40				
内	正明只	人件費	0	3,244	3,180	3,180	3,180	3,180				
訳	臨時	人数										
	職員	人件費										
総コストD=A+C			0	3,244	3,485	3,526	3,539	3,539				
市民	1人コストロ/	人口 (円)	0.00	51.16	54.63							
受益	益者負担率	B/D (%)										

5 指標の推移(Check(1))

	_	指標の推移(CheckU)										
		指標名		単位	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H32年度	指標の語	说明	
		環境意識が高ま	まった 割合	%	目標	1	-	70	70	白井市の豊かな暮らしを支える重要な		
,	<u>1</u>	块块~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	/0	実績	1	-	85		素である水と緑の大切さを市民一人のが認識する割合(神々廻市民の森			
	D	種別 成果指標	種別 成果指標 指標の方向		達成率	1	-	121.4		た行きたい)		
		指標1単位当た	こりコスト	(千円	3)	ı	ı	41.0	50.6	コスト効率	向上	
		主催・共催事業の参加人		人	目標	ı	15	80	80	市の主催・共催事業の参加。 数(市の職員を除く共催者		
,	数	数			実績	-	13	61				
(種別 成果指標 指標の方向		1	達成率	-	86.7	76.3		の人数を含む)		
		指標1単位当た	3)	-	249.5	43.6	44.2	コスト効率	向上			

評価対象年度

H 29 年度

6 事業の評価(Check2)

	項目	評価	評価の理由・課題
	市が関与する必要性は薄れていないか	0	森や自然に触れる機会が少ない市民が、森
必要	対象者の減少など事業の実施意義は薄れていないか	0	を訪れ、環境保全活動を行う機会を得ることは、少なからず環境意識の高揚に寄与す
性	事業を実施しないと市民や地域社会に不利益が生じるか	×	る。また、不特定多数の市民に機会を提供 するためには、市の関与が不可欠である。
	対象や意図を限定又は拡充する必要はないか	0	9 公にめには、中の属当から引入である。
	国・県・民間に類似の事業・サービスはないか	0	市民団体の意見を参考にして、事業内容
有効	指標目標を達成したか、意図の実現に近づいているか	×	の協議を進めており、手段は適切であ る。
性	他事業との連携・統合の余地はないか	0	
	手段は適切か、サービス水準は適切か	0	
	民間委託や市民団体等との協働の余地はないか	×	事業内容の充実を図るためには、市と市民団体等の投票が不可欠である。
効率	受益者負担について見直す余地はないか	0	民団体等の協働が不可欠であることを考 えると、さらなる市民団体等との協働を
性	業務プロセス(進め方・手続き)に工夫の余地はないか	0	検討する余地はあると考える。
	実施体制(事務分担など)に工夫の余地はないか	0	
市日	R·対象 □ 増加傾向 ■ 変化なし □ i	減少傾向	
者	マルスペースの ニーズの でいる」又は「自然保護活動に今後取り組みたい なった点を考慮すると、本事業にも一定のニース	リーとする	3回答が全体の3割前後に上る結果と

□ 増加順回 ■ §10な0 □ Mダ順回 平成26年度に市が実施した「第13回住民意識調査」のなかで、「自然保護活動に既に取り組んでいる」又は「自然保護活動に今後取り組みたい」とする回答が全体の3割前後に上る結果となった点を考慮すると、本事業にも一定のニーズがあることがわかる。

7	今後の方向]性	(Action)					
			改善して継続 🛘 現状のまま継続 🔻	休廃止(年度) 🗆	終了	(年度)
			□ 目的(対象・意図)の再設定	(実施時期:	Н	年		月)
			□ 手段・サービス水準の見直し	(実施時期:	Н	年		月)
			□ 他事業との連携・統合	(実施時期:	Н	年		月)
	事業の		□ 業務プロセスの改善	(実施時期:	Н	年		月)
广	方向性	حا	□ 民間委託を導入・拡大	(実施時期:	Н	年		月)
			□ 市民等との協働を導入・拡大	(実施時期:	Н	年		月)
			□ 受益者負担の見直し	(実施時期:	Н	年		月)
			□ 臨時・再任用職員の活用	(実施時期:	Н	年		月)
			■ その他	(実施時期:	Н	30 年	4	月)
		事業	能の一層のPRと財政負担の軽減を兼ねて、	ガバメントクラウドス	ファン	ディング	で資	金調達を
	改善内容		こなう。資金調達方法は「オールイン(実施		を達成	或しなくる	とも	集まった
		額力	が支払われる)で行い、平成31年度の事業	業に充てる。				
٦Ł	ギニトの田	市	nのみなず、市外の方へ事業のPRを行うる	ことができる。				
	善により期	市の	D事業費の削減につながる。					
行	される効果							

事業コード 2 - 2 - 1 - 01

森のグランドワーク推進事業

平成30年度事務事業評価シート(重点戦略事業・一般事務事業用)

1 其木情報

事業名	環境学	学習推進	進事業	ŧ								コート	2 - 2	- 2	2 -	1
位置づけ	みどり	みどり活用プロジェクト みどりが価値を生み出									を生み出する	まちづ	<り			
四世ノバ	白井	白井の自然環境の豊かさを知り育むための環境学習の推進														
事業期間	平成2	28年度	₹ ~	平成	32	年度	担	账	市民環境経	済部	環境語	果	課等長	川上	利一	
予算科目	会計	一般	款	4	項	1		4	事業	環境	竟学習推進事	業				
根拠法令	なし										事業区分	† =	5単独事業		補助事	事業

\circ	事業概要	(Dlar
_	尹未恢女	(Flair

	社会問題となっているさまざまな環境の悪化について認識してもらうため、市民一人ひとりが環境 の保全に取り組み、その活動を広げられるよう各種環境学習講座等を開催する。										
目的	対象(誰・何を)	意図(どういう状態にしたいか)									
	市民	市民一人ひとりが、環境との関わり合いについて関心を持ってもらい、環境保全活動の契機としてもらう。									
	■ 直営 □ 全部委託 □	一部委託 □ 補助金等 ■ 協働 □ その他									
手段	・環境関係市民団体、学校と協働・) ・環境学習講座の開催	車携して環境フォーラムを開催									

3 取組状況 (Do(1))

・市民団体等と協働で環境フォーラムを開催(体験活動とパネル展示) ・市民団体と共催で夏休みこども環境学習を実施(筑波宇宙センター、筑波実験植物園) H29年度 • 市内の水生生物の展示。市内に生息するホタルの調査、生息場所再生の資料とするためホタルの生育調査 取組状況 ・市民活動団体が実施している環境学習について、支援や市との共催での実施(全11回) 前年度以前評価での改善項目 改善状況(前年度評価に基づかない改善事項等も含む) 改善策 業務プロセスの改善 平成29年度は新規で2つの市民団体と共催で講座(計12回)を 取組状況 市民等との協働を導入・拡大 企画することができた。※雨天により1回中止

4	コスト(Do(2)						(千円)
	区分		H27年度決算	H28年度決算	H29年度決算	H30年度予算	H31年度予算	H32年度予算
事業費計 A			76	14	42	157	157	157
	国県支出会	金						
財	受益者負担	<u>B</u> B						
源内	地方債							
訳	その他							
	一般財源		76	14	42	157	157	157
人作	‡費計	С	238	2,433	2,385	3,180	3,180	3,180
	正職員	人数	0.03	0.30	0.30	0.40	0.40	0.40
内	正明只	人件費	238	2,433	2,385	3,180	3,180	3,180
訳	臨時	人数						
	職員	人件費						
総二	コストD=	A+C	314	2,447	2,427	3,337	3,337	3,337
市民	1人コストロ/	人口 (円)	4.97	38.59	38,04			
受益	益者負担率	B/D (%)						

#5## O### (OL 10)

5	指標の推移(Check⑴)										
指標名				単位	区分	H27年度	H28年度	H29年度	H32年度	指標の説明	
1	環境意識が高まった割合			%	目標	-	-	70	95	白井市の豊かな暮らしを支える重要な要素である水と緑の大切さを市民一人ひとりが認	
					実績	-	ı	92			
	種別	成果指標	指標の方向	1	達成率	-	ı	131.4		識する割合	
	指標1単位当たりコスト(千円)				-	1	26.4	35.1	コスト効率	向上	
2				,	目標	300	300	500	800	講座に参加した人数	
				→	実績	155	270	784			
	種別	成果指標	指標の方向	1	達成率	51.7	90.0	156.8			

9.1

4.9

2.0

評価対象年度

コスト効率

H 29 年度

向上

C 事業の証価 (Classic®)

指標1単位当たりコスト(千円)

	_6 事業の評価(Check2)								
		項目	評価	評価の理由・課題					
		市が関与する必要性は薄れていないか	0	市の環境基本条例では市の責務として、環境の保全に関する総合的な施策の策定や実施を					
	必要	対象者の減少など事業の実施意義は薄れていないか	0	定め、情報の提供等により、市民意識の高揚					
	性	事業を実施しないと市民や地域社会に不利益が生じるか	×	に努めなければならないとしており、関与の 必要性は高い。					
		対象や意図を限定又は拡充する必要はないか	0						
		国・県・民間に類似の事業・サービスはないか	×	市内の豊かな自然環境を活用した環境学 習を市民団体と協働で実施でき有効で					
	有効	指標目標を達成したか、意図の実現に近づいているか	0	首を中民団体と励動で実施でも有効であった。					
	性	他事業との連携・統合の余地はないか	0						
		手段は適切か、サービス水準は適切か	×						
		民間委託や市民団体等との協働の余地はないか	0	市民団体との協働により実施しており、					
	効率	受益者負担について見直す余地はないか	0	効率的である。					
	性	業務プロセス(進め方・手続き)に工夫の余地はないか	0						
		実施体制(事務分担など)に工夫の余地はないか	0						
ĺ	市	R・対象 □ 増加傾向 ■ 変化なし □ 3	減少傾向						
ı	本.	スープの 平成26年度の住民意識調査によると、白井に住み続け	たい理由と	こして「自然環境の良さ」が高い割合で挙げら					

れており、また、「自然環境の保全」については満足の割合が高いことから、自然環境に対しての市民の意識は

状況・内容 高いものと判断できる。 今後の井内岬 (↑ ;;)

者ニーズの

<u>/ ラ後の力に</u>	<u> ギャレー </u>	(Action)									
		改善して継続 □ 現状のまま継続 □	休廃止 (年度) [〕 終了	(年度)						
	ļ	□ 目的(対象・意図)の再設定	(実施時期: H	年	月)						
		■ 手段・サービス水準の見直し	(実施時期: H	30年	4 月)						
		□ 他事業との連携・統合	(実施時期: H	年	月)						
事業の		□ 業務プロセスの改善	(実施時期: H	年	月)						
方向性		□ 民間委託を導入・拡大	(実施時期: H	年 年	月)						
		□ 市民等との協働を導入・拡大	(実施時期: H	年 年	月)						
		□ 受益者負担の見直し	(実施時期: H	4 年	月)						
		□ 臨時・再任用職員の活用	(実施時期: H	4 年	月)						
		口 その他	(実施時期: H	年	月)						
	小中学校の教育計画に基づいた学習や体験を取り入れた授業の開催										
改善内容											
カギに トルサ	小中学校の時から、環境との関わり合いについて関心を持ってもらい、環境保全活動の契機とし										
改善により期	てもらう。また、自然豊かなまちであることを感じてもらい、将来にわたり市へ愛着を持っても										
待される効果	5	えるようにする									

No. 31 事業コード 2 - 2 - 2 - 01